

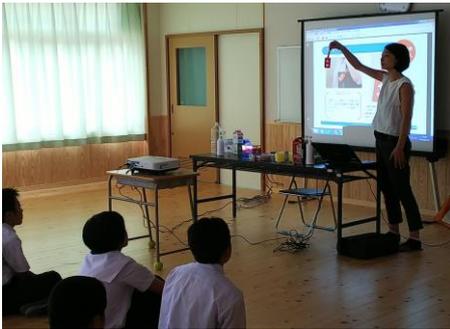
平成30年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	唐津市立巖木中学校		
2 所在地	唐津市巖木町牧瀬 328 番地 1		
3 校長名	藤田 裕之		
4 学級数 児童生徒数	5 学級 87 人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 87 人

6 取組のねらい

お互いの立場を理解して違いを認め、思いやりの心を育むとともに校内研修のひとつの柱に位置づけ、UD部を新たに設けて学習環境と授業スタイルの両面から全校で誰もが過ごしやすい学習しやすい学校づくりをめざす。

7 取組の実際



① ユニバーサルデザイン教育講話

佐賀県県民協働課のユニバーサル社会推進担当の方による講話を全校で聴き、UDに関する知識や理解がいっそう高まった。

身近な牛乳パックやシャンプー等にもUDが施されているのに驚きの様子であった。



② 3年妊婦疑似体験

子育てサロンで妊婦の疑似体験を3年生で行った。慣れない手つきで赤ちゃんを抱っこ。お母さんの苦勞がわかったようで、短時間ではあったが、生徒からは満足感で溢れるくらいの笑顔がたくさん見られた。



③ 教室環境整備

前面黒板側には掲示物を貼らず教室後方の掲示スペースに貼ったり、すべての机と椅子にテニスボールをつけてたりして、授業に集中できる環境を全クラスで統一して行っている。

ユニバーサルデザインの視点から共通理解しておくこと
 吉津市立蔵木中学校

- ① 教室環境の整備として、授業に集中できるように前面黒板には掲示物を必要最小限にとどめる。
- ② 全ての授業において、1時間の授業の流れを視覚化し生徒に示すことで、見通しをもつて授業に臨めるようにする。
 例 1時間の流れをホワイトボードに書いておく など
- ③ 色チョークの使用をすべての授業で統一し、大切な所を生徒が分かりやすく、確認しやすいものとする。
 例 重要語句 → 黄色、ライン → 赤
 青・緑は見にくいのでできるだけ使用しない など
- ④ 「めあて」、「話し合い」などのカードを全クラス統一して使用する。
 黒板の左横にホワイトボードに貼って準備しておく。(9月中まで)
- ⑤ 話し合い活動がスムーズにいくように、各クラス「まなボード」「マジックセット」などを準備しておく。
- ⑥ 前面黒板の使い方を各クラス統一する。時間割り、連絡、密題などを記入。
- ⑦ 施設・環境整備として、テニスボールを教室の全ての机・椅子に装着して雑音を防ぎ、チャイム等の工夫(平常校時と短縮校時でチャイムの音を変える)で毎日の生活をスムーズに過ごせるようにする。
- ⑧ロッカーの整理の仕方を写真で掲示しわかりやすくする。 **整理整頓をしよう!**

(例) 今日の流れ
 ・前時のふりかえり
 ・今日のめあての確認
 ・今日の活動
 ・今日のまとめ
 ・次時の予告



④ 授業におけるUD化
 1学期に校内研修でユニバーサルデザインについての研修を受け、UD部を中心に作成した「ユニバーサルデザインの視点から共通理解しておくこと」をすべての授業で取組を行っている。

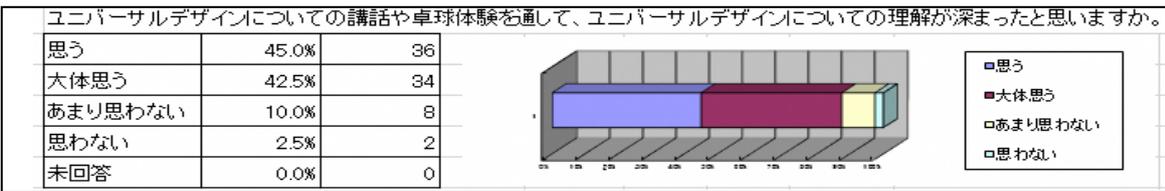
⑤ サウンドテーブルテニス 疑似体験

全盲の講師による講話とサウンドテーブルテニス体験を通して盲目の人の立場を理解し、「自分にできることは何か」を考えた。

吉津市立蔵木中学校 二年 組 名前

〇感想文のお願い 「UD」の話聞いて、思ったことや考えたことを書いてください(書きたりないときは裏に続きをどうぞ)!

今回盲目の方の話を聞いて自分は人助けは大事と分かりました。
 またサウンド卓球では音のする球で卓球をして目をつぶりがながらしてみると全然できませんでした。たけと本当に目が見えない方は耳に聞こえる音だけで場所を判断して打返していました。このように失った物を後悔せずに、+思考で考えられる人になって人のためになることをしていきたいです。



思う・大体思うで全体の87.5% 【学校評価の生徒のアンケート項目より】

8 取組の成果と課題

UD講習や様々な疑似体験を通して立場の違いを理解し、UDの必要性を学び、様々な立場の人の視点で物事を捉えるようになった。また、思いやりの心が今まで以上にもてるようになったことがアンケート結果や感想からうかがえる。生徒はもちろんのこと職員の意識も高まり、授業の工夫により「わかる授業」の一助となっている。様々な取組を通して短期間で終わらず継続した取組が必要であり、今後も学校全体で推進していく。